

授業の流儀、先生としての流儀、
教科「情報」に対する流儀を、酒井春名先生に伺いました。

お話を
伺ったのは

品川女子学院 教諭 酒井春名

Haruna Sakai

「28歳になったときに活躍できる人材を育成する」ことを目標とし、実社会を学びの舞台に据えた取り組みを数多く行う。情報科主任として「社会と情報」の指導に力を入れている。



書ベースの座学に、動画（CM）制作やアプリ制作、社会人を前に行う実践的なブレゼン実習などがある。盛り込まれる。

「子どもたちが学校を巣立って10年後の世界はどんな社会になっているのか。そこから逆算して、いま学ぶべきことを考えます。」

酒井先生の考える「新しい授業モデル」は、生徒と社会人との本当の意味でのコラボレーションの場を設定することではじめて実現される。

「穴埋め問題が解けるだけでは、近い将来、活躍できる場はありません。課題を発見し、解決する力の重要性が増しています。」

たとえば、企業とのコラボでは、協働する企業を子どもたち自身に見つけさせる。自分が社会にどう貢献できるのかを考えさせ、社会との接点を見つける場として機能する。大人顔負けの難しい課題だが、この試練が本当の意味での問題解決力を育成する。

「いまこそがベストでなければならぬ」と、酒井先生は自らにも厳しいノルマを課す。

そんな酒井先生のもとには生徒とコラボしたいという企業の要望が後を絶たない。10年後の目標であったはずの生徒の姿は、もうすでに酒井先生の目の前に現れはじめています。

酒井先生の準備室

酒井先生の必需品

もともと家庭科を指導されていた酒井先生。住居美学への関心も高く、カバンには愛用のカメラが。気になるアート、デザインを見つけると掘らずにははいられない。



企業との商品開発

企業とのコラボレーションによって、生徒たちが実現した商品群。生徒の「課題解決能力」に一目置き、コラボしたいという企業は後を絶たない。



ADEメンバーの証(楯)

ADEはアップルが支援する教育ネットワーク。1年に1度開かれる「ADE Institute」には世界中から優れた指導者が集まる。参加するにはアップルの推薦と、課題審査での合格が求められる。



紙幅の都合で紹介しきれなかったことは、日本文教出版のWebサイトで公開します。ぜひお越しください。

Art Direction / Eishi Takeda (hooop) Illustration / Hankiti Maeda Photo / Makoto Shima, Satoru Yoshida

情報科+ No.003

日文教育資料[情報]

平成26年(2014年)11月20日発行

編集・発行人 佐々木秀樹

発行所 日本文教出版株式会社
〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL: 06-6692-1261

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD33255

日本文教出版 株式会社

<http://www.nichibun-g.co.jp/>

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL:06-6692-1261 FAX:06-6606-5171
東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井1-2-16
TEL:03-3389-4611 FAX:03-3389-4618
九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院3-11-14
TEL:092-531-7696 FAX:092-521-3938
東海支社 〒461-0004 名古屋市東区葵1-13-18・B
TEL:052-979-7260 FAX:052-979-7261
北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似9-12-1-1
TEL:011-764-1201 FAX:011-764-0690